

# ポリテフニズムの動向

長谷川 淳

去る十五日にソ同盟共産党の第十九回党大会が開かれ、一九五一年から一九五五年までの第五次五カ年計画に因する指令の草案が附議された。その全貌は他にゆずるとして、その草案の第四

「国民の物質的福祉、保健および文化水準の向上の部門」の中に「社会主義教育において普通教育が演ずる役割をさらにたかめ、中学校をおえる生徒が職業を自由に選択できるような条件をととのえるため、中学校においてポリテフニズムの教育の実施に着手し、一般ポリテフニズムの教育に移行するのに必要な措置をとる」ことが明記されている。そしてこの草案はそのまま指令として採決されている。ポリテフニズムの理論、歴史、その後の動向については、矢川徳光氏の著書や論文によつて紹介されているが特に第五次五カ年計画の一環として、中学校におけるポリテフニズムが重要な課題として問題にされていることは、われわれの中学校の職業・家庭科が日本の社会の現在や将来の課題に目を閉ぢて「実生活に役立つ仕事一般」や「のぞましい勤労愛好の精神」を強調しているのと対比して極めて興味ある問題である。

この大会以後、ソ連の「教師の新聞」は毎号このポリテフニズムの問題をとりあげている。今ここに紹介しようと思うものは、

去る十月二十二日附「教師の新聞」に掲載された「ポリテフニズム教育と組織的研究」と題するキロヴォオゴロド州パヴルイシヌ中学校長スホムリンスキー氏の論文である。

## ソ同盟発展

のたための第五次五カ年計画に因する第十九回党大会の指令に、中学校におけるポリテフニズム教育の実現に着手するという重要な課題が提起された。この課題を解決するためには、教師のポリテフニズの視野を高めることと、またこの教育の方法を改善することなしには不可能である。ここに、理論と実践の関連が最も明瞭に実現される。ソヴェトの学校に与えられた新しい課題は、組織的な研究に反映せざるを得ない。

各教育者集団と学校長はすでに今日、組織的研究の計画の中で、ポリテフニズム教育の課題に特別の注意を払う可能性がある。われわれの学校では、この方向に最初の第一歩を進めた。この論文において、われわれは組織的研究の再編成の経緯を分かちようとするものである。

ポリテフニズムの教育には理論的側面と実際の側面の二つの面がある。ポリテフニズムの教育の理論的側面は、その実際の側面より

## 技能

これらの報告は、教科課程の個々の部門を明らかにし詳細にし、また七年制学校および中学校における実際の技能の到達目標を定めている。これは教師にとつて、生徒の前に提起されているポリテフニズの教育内容とその必要の範囲を明らかにするに役立つ。同様の報告が、博物学の教師の教科目委員会によつても計画された。

ポリテフニズム教育を実現するためには、見学、実験室作業、学校附属地における実際の労働のような、教授方法の根本的改善が必要である。中でも、ある教師は、見学の実施にはプランを伴うことさえも必要だと考えていた。ポリテフニズム教育の実際の側面と直接結びつくこの方法の改善の目的で、わが学校の教科目委員会は一九五二年度に次の問題の研究を計画した。「授業の組織の中における見学」「見学の計画をいかにたてるか」「見学における理論的内容の強化」「学校附属地における授業」「新しい材料の研究に関する実験室作業」「反復に関する実験室研究」。見学、実験室作業、学校附属地における授業のような方法の改善は、経験の交換や批判なしにはできないことを特に注意することが必要である。

## 博物学教師

の組織的連合によつて計画された特定の問題は、農村の中学校の特殊な条件と結びつけられた。これまでの数年間は、学校附属地の作業は、冬が来ると共に中止されるのが通例であった。これは、社会主義農業の先駆的な実験を促進させることから、教育を引き離すことになるものである。それは、冬には、肥料の準備および貯蔵、雪の保存、春まきのための種の洗滌等の高い收穫の基礎が弱がるからである。このような分裂を避けるために博物学の教師は、自分の教科目委員会のために、冬期に次の

もはるかに明瞭にまた十分に、現行の物理、化学、数学、博物学のプランに反映している。そのために、すべての教師の集団がポリテフニズム教育の理論的基礎を深く研究しようとすることを決議したのである。わが学校の教師たちは教育ソヴェトの会議において「中学校の教科課程におけるポリテフニクの教科内容」というテーマについて、学校長の報告を聞き審議した。この重要な問題の研究に向つてすべての教師の集団が準備した。学校長は、物理、化学、数学博物学の教科課程を徹底的に分析した。教師は、学年全体を通じての見学旅行および実験室作業の全体計画をたて、また生徒が熟達しなければならぬ実際の技能の総計のリストを作成した。学校長の報告の中に、ポリテフニズム教育の実現のための、現行の教科課程が与えている可能性があつた。

教科課程の中のポリテフニクの教育内容をいかに理解しているかを語つた。このほかに教師は、見学旅行の目的について自分の考えを述べた。かくして、ポリテフニズム教育の理論的側面の研究を、全学校の方策——教育ソヴェトの会議における問題の審議——から始めた。ここにすでに、研究の第一段階において、若干の実際の方策がたてられた。

研究の第二段階は、教科目委員会と組織的編成の会議である。教科目委員会の事業計画の中にも、教科課程のポリテフニクの教育内容の研究と関連した問題が持ち込まれた。しかし教科目委員会の会議で、教科課程は一そう深く研究されるであろう。例えば物理および数学の教師の教科目委員会では、次の諸問題を研究する。「七年制学校および中学校の物理の授業における内燃機関の研究」「物理のカリキュラムの中の電気測定器具」「電気測定器具を使用する実際の

問題を研究することに着目した。「冬の肥料の仕入と貯蔵」「水分維持のための人工的な雪の保存」「果樹園における冬の作業」「秋まきの播種期の観察」。組織的な計画の中のこの問題の研究は、必要なく、べからざる実際のな技能を生徒に得させるものであり、また、学校附属地の実習の季節性を除くものである。また、これによつて課業や課外活動から組織的活動を除外するようなことがなくなつた。

過去数年の経験は次のことをものがたつてゐる。即ち、学校附属地の実際の作業および物理実験室の実験的作業の悪い組織の原因はその根本は教師の不十分な準備であり、部分的には現代農業生産の理論と実際についての貧弱な知識である。教師のポリテフニク的資格を改訂するために、ポリテフニク的知識と技能を獲得する若干の方法に着目した。第一、四学級の教師の組織的な集団では、次のテーマの研究を行つてゐる。「土壌の精製」「農業植物の栽培についての簡単な作業」「畜舎における家畜の世話」。

各教師は、学校附属地において農業植物の栽培について生徒を指導するばかりでなく、「一九五三年の春と夏に、若干の荒地——播種のために土地と種を準備し、肥料をほどこし、種まき植物の世話をする。こと——を自ら履習する。この実習を伴う講義なくしては、初等学校の教師に必要なポリテフニク的技能的習得は考えもつかないことである。

**物理の教師** の教科目委員会では、電気測定器具の使用、コルホーイズ電化計画の作成、真空管受信器の調整等の実際のな仕事について教育の計画を学年にわたつてたてた。

博物学および化学の教師は、実習を伴う講義を実施する。温床で

の労働の組織の問題が研究されるであろう。サークルは労働の計算と支払の方式の研究に、特別な努力を捧げるであろう。春の休暇には、サークルの間は教師の指導の下に、播種の時のコルホーイズ等の労働日の記入を行う。

**労働の計算** 方式の研究と適当な実習は、新しい仕事である。ここで教師は重大な困難に遭遇するであろう。教師が予めて準備しておけば、誤りを回避することができる。そしてこの準備には、組織的な研究が決定的な意義をもつてゐる。わが学校の博物学の教師の教科目委員会が次の問題を研究する。即ち「コルホーイズにおける労働の計算と支払の方式を、若い自然科学者のサークルの作業でいかに研究するか」「コルホーイズにおける労働の計算のために、実際の作業をいかに実施するか」。

現在の教科課程における個々の欠点にも拘らず、これらの教科課程はすべて、各教師の集団に対して、ポリテフニズム教育の課題の実際のな解決に着手させてゐる。教科課程のポリテフニク的教科内容の深い研究、ポリテフニズム教育と関連した個々の教授法の研究、教師のポリテフニク的資格の向上、この組織的研究の若干の問題は、現在学校に（課せられた）新しい問題である。

### 寄贈資料

産業教育プランとその展開

千葉県君津中学校

実践のすがた（研究報告第三集）

同右

苗を育てる。木の小片で境界をつくつていちごの茂みをつくる。一九五三年春に穀物や工芸作物に肥料をほどこす。コルホーイズにおける輪作の場合の枯凋病をふせぐために化学的方法の利用を実際的に試験する。

これらの実際の作業は、教育ソヴエトの会議によつて確認された最少限である。これは、教師がでなければならぬすべてのことを含むものではない。しかしポリテフニズムの教育は、政治的な運動ではなく、われわれの活動の破却し難い部分であることを考慮してゐる。実際の作業は、教師ポクテクニク的資格を高めるものである。各々の教師は、個々の実際のな課題を受けとつて、組織的な集合或は教科目委員会の指導者の監督の下にその課題を遂行するのである。この課題を遂行する経過について教師の答を定期的に聞くことは教育ソヴエトの義務である。

**農村の学校** の多くの生徒、特に七学年級の卒業生は、農業生産に入る。彼等には、農業労働の実際の技能を身につけ、コルホーイズ生産の組織的農業構造に精通することが必要不可欠である。

残念ながら、このポリテフニズム教育の本質的な構成部分が、多くの農村の学校で全く無視されている。結果において、七年制学校だけでなく十年制の卒業生さえ、特別作業班や作業群について、コルホーイズにおける労働の計算方式について、その支払についての観念をもつていない。きまつたように、農村の学校の卒業生は、コルホーイズ生活の基本的法律である農業協同組合の規則を知らない。この年度に、生徒はこの規則の基本的な趣旨を徹底して知ることができらるであろう。若い自然科学者のサークルにおいては、コルホーイズ

### 拾い話

産業教育振興法が施行され、それに基づいて設備基準が中学校と高等学校についてそれぞれ発表された。それを見るとき、一応もつともな設備がずらりと並べられ、数最も経費も明細に示されている。

ところが、これをよく見るとぜひ必要と思われる大きな設備や細かな工具がもれている。あんなに何回も現場の先生や学識経験者を集めてねりにねつた規準に、どうしてそんな粗漏があつたのか、まつたくふしぎであつた。

先日、その当事者にこの点を質してみたら、その理由はつぎのようであつた。

「實は、われわれだけの最終案ではそういう設備が入つてゐたのが、換算の関係で何十万円以上のものと何百円以下のものは全部削れという当局の指示であんなものになつてしまつた」と聞かされた。そしてさらに「あれはすでに省令となつたから、もう容易に改正はされないだろう」とつけたした。

現場の教育実践を振興するための方策が、このように何らの教育的視点をもちずに、単なる予算の関係だけできめられたというカラクリを知つて、私は産業教育振興法の何たるかがわかつたやうな気がした。